

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1290100187		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	たのしい家千葉中央		
所在地	千葉県千葉市中央区院内2丁目15-7		
自己評価作成日	平成30年8/10日	評価結果市町村受理日	平成31年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成30年10月10日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>○「人間性の尊重」「尊厳の保持」「利用者様本位」「個別ケアの推進」を理念に職員全体で取り組み、支援していくように努めている。</p> <p>○充実した医療との連携体制</p> <p>○重度化にも対応</p> <p>○地域密着を意識したレク活動</p> <p>○季節感を味わえる食事の提供に取り組んでおります</p> <p>○心優しいスタッフが質の高いサービスを提供</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>JRの最寄り駅から徒歩5分、千葉駅から徒歩15分ほどの中心地区にありながら閑静な一面に位置する、グループホーム専用にて建てられた施設で、居室も共用部分ともにゆったりとした造りで、日中の間ほとんど暮らす居間兼食堂は、開口部が広い為明るく、公園に面しているので恵まれた環境にあります。</p> <p>介護の場で重要な項目について、定期的に自己評価して見直すシステムを取っており、利用者それぞれについてきめ細か記録を取って、利用者に寄り添った本人本位のケアが行われています。</p> <p>内科医院に隣接していて、月2回の訪問診療と24時間対応により利用者の健康管理を行っており、医療面での不安が少なく、看取りも行っているのが最後まで安心して暮らせるホームです。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示し、スタッフ全員が目に残るよう共有している	8項目からなる法人の優れた経営理念等を掲げていますが、地域密着型サービスの特徴づけるものではなく、又項目が多いので、全職員に完全に周知徹底することも困難と思われます。	全職員の知恵を集め、地域密着型サービスの意義を踏まえた、簡単で明快な事業所独自の理念を掲げることが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りイベントへの参加や院内小学生との交流会を行いました	町内会に加入しており、敬老会に招かれたり、祭りの神輿が近くに来てくれるので見学したりしています。近くの公園で行われる親子三代祭りにも出かけます。また、近くの小学校から年に2回5~20人やって来て歌やレクリエーションで楽しませてくれます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設近隣への買いもの(お米屋やコンビニエンスストア等)地域の行事参加、小学校との交流を通じて認知症についての理解を少しずつ深めて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回(H28.4月より3ヶ月に1回)での会議にて連絡事項・活動報告を行いご家族様と話し合いの場を設け、より良いサービスの向上に役立っている	外部から地域包括支援センター及び民生委員の出席があり、家族も4~6人加わって年間4回開催しています。事業所の現況報告が主体となりますが、専門家の意見・情報を得、家族の質問要望を聞く良い機会になっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告など小さな事でも報告、相談し連携を計っている	市の担当者と直接会うのは、各種報告書を提出する時ぐらいです。ただ地域包括支援センターが運営推進会議に毎回出席してくれるので、実情をよく理解してくれており緊密な関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員に研修を実施し研修報告書を提出してもらい常に意識付けをしてもらっている。また、運営推進会議の場でご家族様に対しても身体拘束をしないケアの実践の取り組み等をご説明ご報告しております	職員への内部研修は、一堂に会する機会がない為、数回に分けて、全員にもれなく行き渡るようにしています。研修後は感想文を書かせたうえ、日常業務に必要な数十項目にわたって、出来ているか出来ていないか自己評価させて、徹底化を図っています。	全ての職員が「禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しているとは言えません。知らず知らず身体拘束を行ってしまうという事の無いよう、周知徹底しておくことが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議等で職員全員に周知徹底をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として研修を行っており職員全員に周知している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	「重要事項説明書」「利用契約書」等でご説明を行い理解頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族来所時に意見をお聞きし反映している	利用者については、日頃のケアの中で意向を汲み取るようにしています。家族については、運営推進会議に4～6家族出席するので良い機会となっています。会議以外では、面会のための来訪時や電話連絡時に聞くようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティング時だけではなく普段から意見を出しやすい環境作りをしている。法人として気軽に提案できるシステムがある	1名を除き全員が正社員なので、ホームの運営に対しても積極的に関わって行こうとの気概が感じられます。管理者も気軽に話せる雰囲気作りに努め、出された意見を運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として「誰伸び制度」「段位制度」があり、向上心を持って勤務できる環境がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための研修、法人内部研修だけではなく外部研修にも参加を呼びかけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ご紹介頂いた事業所との定期的連絡やグループホーム連絡会に参加し情報を共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者を中心にご本人から要望を聞きより良い支援、御本人さまの安心に繋がるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者を中心にご家族から要望を聞きその都度、報告・連絡・相談を密にしている。ご家族様が気軽に相談が出来る雰囲気作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者を中心に気づきを大切に、ご本人やご家族から要望を聞き必要に応じた支援を提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活に欠かせない自立支援を見出せるように利用者様と職員と一緒に参加している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の意向を考慮しご家族様と一緒に利用者様の支援が出来る様に常に相談や報告を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出や知人との交流を積極的に行っている	家族が面会に来ることが多く、また、昔の仕事仲間が2週間に1回来訪する人がある等知人が訪ねてくることもあります。家族が外食や墓参り、馴染みの美容室に連れて行く人もあり、ホームでは関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性等も考慮し、席を配置した環境作り、職員が寄り添うことで孤立しない様支援を心掛けている。レクリエーション等を通して利用者様同士が関わり合える機会を多くなるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族からの連絡や相談に乗り、関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員がひとり一人の希望や意向を可能な限りくみ取り支援できるよう努めている	契約時にアセスメントを行い、フェイスシートを作成して、生活歴や思いを事前に把握しています。その後は、日常の生活の中でのコミュニケーションで、思っていることや意思を確認し、折り紙がしたい、○○を食べたい、本を読みたい等の思いを汲み取り支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からヒアリングを行い把握に努め可能な限り今までの暮らし方が出来るよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に気付く目を持ち変化を発見したら職員間で共有し、本人の状態によっては医療への素早い連携を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行いご本人とご家族様の要望を聞いた上で介護計画書を作成している。	計画作成担当者は、毎月行うフロア会議で職員の意見を聞き、日々のケア日記、観察記録等のデータをまとめ、医療関係者、来訪時の家族の話や利用者の思いも反映した計画を作成しています。原則3か月ごとにモニタリングを行って計画を見直しています。更に、特別に変化があれば都度柔軟に見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな気づきの部分も個別記録に落とし込み職員間で共有し実践し介護計画書の見直しに取り入れている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアの推奨を計りその都度変わるニーズに対して柔軟な考えを持つよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりに合った地域資源を把握、利用をし安全で豊かな暮らしが出来る様支援に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携し、月2回の往診以外の特変時にも対応して頂けるよう連携を密に計っている	隣接の医院から内科医が月2回訪問診療に来ており、24時間対応してくれます。従来からの内科医、その他専門科への受診は家族が対応することとなっています。訪問看護師やマッサージ師が週1回訪れ、希望者には歯科医が訪れる等適切な医療支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時の他にも気づいた事があれば、すぐに報告、連絡、相談をし素早い医療連携に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	可能な限り病院へ直接出向き情報把握に努め早期退院に向けてご家族様、病院側と密に連絡を取っております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約取り交わしの際に御家族に看取りについてご説明し実際に看取りケアする際には必ず同意書を頂いている	入居時に、重要事項説明書で「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」について説明しており、実際に重度化した時に、主治医・看護師・ケアマネジャー、家族と話し合いを行い、同指針についての同意書を再度取り付けています。今年も1名看取りを行っており、職員の経験も増えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修や会議等で確認し理解し実践力を身に付けて頂いている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している他、社内マニュアル(BCPマニュアル)を社員全員が理解把握し実践できる体制を強化しております。また、地域の方からの協力体制についても町内会や運営推進会議内でお願いしております	年2回防火避難の自主訓練を行っており、スプリンクラー等の設備も法令通り備えています。職員も万一の際の対処方法を身に付けており、飲食料も一週間分程度備蓄しています。	消防署の立ち合い、近隣の人を交えた避難訓練の実施、備蓄品の内容の真直しは、今後継続して取り組んでいくべき課題です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・マナーの研修、認知症理解研修を実施し各々に理解実践して頂いている	プライバシーについて15項目を職員が定期的に自己点検するシステムがあります。利用者への声掛けは「～さん」で統一し、トイレ内にカーテンを備え、トイレ誘導の際の声掛け、トイレ・入浴介助では羞恥心に、また、居室への入室にはノックを欠かさない等プライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ちょっとした会話の中での言葉から利用者様の要望を見出し決定が出来る様に、寄り添うケア声掛け支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしはご本人の趣向やペースに応じて支援を行っている他、御本人に選択できる状況を作るよう努めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の着たい服やおしゃれ等要望を尊重し支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬は食材を意識した献立を用意したり外食や食事づくりをレクリエーションに取り入れイベント化する事で楽しんで頂いております	食材はユニットごとに異なる業者から配送を受けているので、献立もユニットで異なります。利用者は野菜を刻むなど出来ることを手伝っています。デザートづくりを職員と一緒に楽しむこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材会社のメニューを中心に栄養・バランス・カロリーを意識した食事提供をしている。水分量にも十分注意を払っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様の状態に合わせた口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様、各々の排泄パターンに応じた声掛けや誘導をし自立支援を行っている。	職員は全員の排泄一覧表を確認しながら利用者それぞれに応じたトイレへの声掛け・誘導を行っています。布パンツを使用しているのは1名のみで他は全員リハビリパンツを使用していますが、自立に近い利用者もあり、改善に向けた努力が窺われます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々に応じた予防の行い運動や食事、薬の調整を主治医と連携し支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	柚子湯やしょうぶ湯等、季節感を味わえ楽しんで頂けるように工夫をしております。本人のペースで入浴できる事を意識し声掛け支援をしている	週2回の入浴が原則です。1週間の中ほぼ毎日、午後利用者2～3名が順次、音楽が流れる中職員と会話を楽しみながらゆったりと入っています。状態によってはシャワー浴で済ますこともあります。水虫退治に足浴や手浴を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様各々の状態に応じて休める様支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員に薬の情報が分かるようにノートを作り何時でも見れるようにしています。症状の変化があった場合等は連携医に報告連絡し素早い対応に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でのレクリエーションとイベント外出レクリエーションを立案し、ご利用者様に合わせて提供し楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩外出、遠方には車で移動するなどし外出支援を行っています	天気の良い日は居間兼食堂の前面にある公園で数名ずつ散歩を楽しんでいます。職員付き添いで買い物に行ったり、喫茶を兼ね外出することもあります。遠出は、年間計画を立て、お花見、ポートタワー、バラ園、植物園、チューリップ畑等に出かけています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時には財布を持って頂いたりお支払をして頂いております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望により電話を掛けたりお手紙を出せる様に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節に応じた造花を置くなど、生活感を取り入れた居心地の良い共有スペースになるよう環境整備をしている	千葉市内中心部にありますが、専用に建てられた建物であるため、共用部分も広くゆったりしていて清潔感があり、居間兼食堂は開口部が大きい為明るく、角の天井部に凸面鏡があり、調理室・事務室から廊下部分全体を一目で見渡せるよう工夫されています。季節感のある作品で居間兼食堂の壁面を飾り、調理コーナーからの音や匂いに家庭での生活が感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置に気を配り、好きな席に着けるように工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた家具や備品等を持ち込んで頂き、ご自宅での生活環境に少しでも近づけるようにご家族と相談し対応している	居室はクローゼットが備え付けの上、面積も広いので、全般にすっきりした感じですが、簡素な部屋から、机、椅子、テーブルなど馴染みの家具を持ち込んだり、写真や絵で壁面を飾っている部屋もあり、それぞれ個性あふれる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人ができる事や分かる事を分担して行って頂き安全で自立した生活が出来るように常に考えて工夫し支援している		